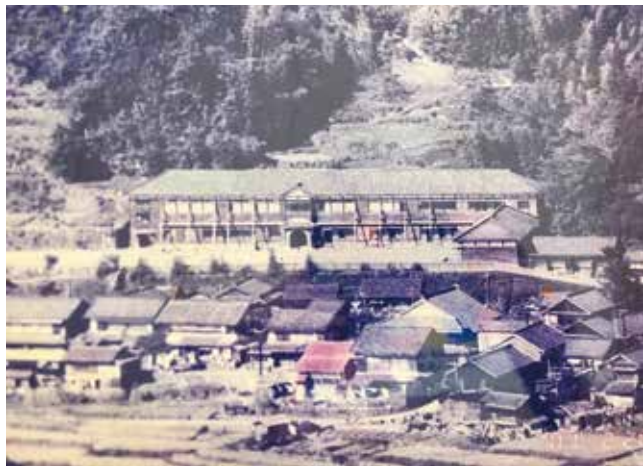


そこに 学校があった 休廃校の歴史

昭和小学校 (中)

平成以降に休廃校になった学校を中心に振り返ります。



新築された校舎 (旧保育所跡)

※本校舎右側手前の建物は大井川尋常小学校からの移築

二転三転する学校制度

明治42年から大井川尋常小学校の5・6年生が四手尋常小学校に通うことになったのは、同19年に公布された第一次小学校令〈尋常小学校の修業年限4年・高等小学校の修業年限4年〉によると考えられる。ただし、四手尋常小学校に高等科が設置されるのは大正13年まで待たねばならない。当時の政府は〈尋常小学校6年・高等小学校2年〉とすることを奨励していて、大井川尋常小学校の5・6年生が四手に通うことになる2年前には、小学校令が一部改正され、尋常小学校の修業年限が6年となっている。当時の日本はまだ明治維新からの急激な社会変革の中であって、学校制度も二転三転、さらにそれが地方の隅々まで行き渡るまでにタイムラグもあった。



昭和9年の沈下橋架橋は対岸の子どもたちの通学事情も激変させた

今も昔も変わらぬ子どもの心

昭和3年、西上山村を昭和村と改称。これを受けて同10

年、昭和尋常高等小学校となった。翌11年旧保育所跡(現町営住宅地)に校舎が新築され、戦争に突入した同16年昭和国民学校となった。山深く長閑なこの地にも戦争は暗い影を落としており、子どもたちの服装も男子は学童服、女子はモンペ着用に一変している。そんな時代でも子どもたちは幼気だ。戦争の足音が聞こえてきた昭和10年代初めにピカピカの1年生だった方の思い出を聞いた。「石筆で文字を書いた石板をお父さんお母さんに見てもらいたくて、消えたらいかん消えたらいかんと慎重に持って帰ったことを今でも覚えている」今も昔も変わらぬ子ども心に胸が熱くなる。

いよいよ新生昭和小学校のスタート

昭和20年終戦。同22年学制改革が始まる。昭和国民学校は昭和小学校となり、高等科は昭和中学校となった。平和の時代に入ったことは、先の子どもの服装にも



現在の地に移転

表れている。面白いことに男子はまだ学童服の子が多く私服の子の割合が増えていくのは「徐々に」であるのに比べて、女子は脱モンペが早い。街から遠く離れた山郷であっても、やはり女子の方がオシャレに敏感だったのかもしれない。

同29年、校舎が現在の地に移転新築された。創立から紆余曲折の歴史を重ね、いよいよ新生昭和小学校のスタートとなったのである。ここから日本社会は戦後復興から高度成長期へと進み、昭和小学校の設備等も見見るうちに充実して



プールが完成!

いく。同38年に給食室、41年に体育館、42年から校庭のかさ上げ工事、49年には新校舎落成、52年にはプールが完成するのである。

(次回に続く)

町のうごき

(6月30日)	人	口	前月比
男	7,080	-7	
女	7,604	-14	
計	14,684	-21	
世帯数	7,886	-7	

	出生	死亡	転入	転出
男	2	11	9	7
女	2	12	9	13
計	4	23	18	20

(6月中の届出)

窪川地域 10,482人 大正地域 2,020人 十和地域 2,182人